

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。
-------------------	---

今年度の 重点目標	1 「学力」＝「学ぶ力」の向上と進路実現
	2 「人間性」の育成
	3 地域と連携した学校つくりと魅力化

年 度 当 初				評 価 結 果 (9) 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 「学力」＝「学 ぶ力」の向上と 進路実現	①学力の向上と学習習慣の確立	・主に大学進学を志望する生徒に対し校外模試を実施し、進学への意欲の高揚を図ることができた。 ・「学力の向上感」に係る問いへの生徒の肯定的回答が82.4％と目標を達成。 ・基礎力診断テスト(12月)結果 1年：D 3 ゾーンの生徒数はの減少は見られたものの、全体の36.2％にとどまった。 2年：B 3 ゾーン以上が増加し、上位層が伸張している。D 3 ゾーンは減少したものの32.3％であった。	・「学力の向上感」に係る問いの生徒の肯定的な回答の割合が90％以上。 ・基礎力診断テストにおいて、D 3 ゾーンの生徒数を全体の25％以下。 ・大学進学希望者の増加。	・各教科で生徒の学力に応じた授業の工夫をし、学習課題等の提示を計画的に実施する。 ・基礎力診断テスト結果の有効な活用方法について検討する。 ・校外模試の積極的な実施と進学志望に応じた個別指導の確立。	・生徒の「学力の向上感」に係る問いへの肯定的回答が 80.7％。 ・基礎力診断テストにおいて、D 3 ゾーンの生徒が42.3％。	D	・進路実現のために必要な学力向上のための方策の実施(補習、校外模試等)。 ・基礎力診断テスト結果の分析を校内で共有し、指導に活かす。
	②生徒が主体的に取り組む授業の工夫	・「授業では、自分の意見や考えを発表する機会が設けられている」と回答した生徒は88.2％とほぼ目標を達成。	・「授業では、自分の意見や考えを発表する機会が設けられている」と回答した生徒が90％以上。	・観点別評価を生かし、生徒に学習の振り返りを促すことで学習に対する意欲を向上させる。 ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方を検証しつつ、「指導と評価の一体化」の観点からの学習指導を進める。	・「授業では、自分の意見や考えを発表する機会が設けられている」と回答した生徒が88％。	B	・効果的な公開授業週間の実施。
	③「自らの将来について主体的に考える」キャリア教育の推進	・求人票をタブレットで閲覧できるように電子化し、保護者・生徒ともに進路研究が出来る仕組みを整えた。 ・3年間を通じたプログラムを実施出来ているが、生徒も実施者もキャリア教育の流れを意識できる工夫が必要である。 ・総合的な探究の時間で生徒は自分の興味がある分野で仲間と協働し、その問題を仲間と議論しながら深く調べることで課題を解決しようとする姿がみられる。 ・「自分の進路実現に向け、クロームブック等で情報を集めるなどして、進路を考えている」と回答した生徒が83.0％。	・「進路実現に向けて主体的に行動」に係る問いへの生徒の肯定的な回答が80％以上。 ・進路学習が3年間を通じた一連の流れのなかで実施できている。	・進路指導部が作成した3年間を通じた進路ストーリーの職員周知を行い、それに基づき各学年の進路学習を効果的に実施する。 ・主体的に進路研究ができるようクロームブックの有効活用を推進。 ・キャリアパスポートの有効活用。	・「進路実現に向けて主体的に行動」に係る問いへの生徒の肯定的回答が81.9％。	B	・「進路ノート」を活用して学年ごとに系統立てられた進路指導を実施。
2 「人間性」の育 成	①学校教育活動を通して基本的生活習慣とマナーの確立	・頭髮服装検査では、各学年でのきめ細やかな指導を粘り強く継続する必要がある。 ・「服装や頭髮などの校則を守り、日常生活でもマナーを守るように心がけている」と回答した生徒が93.5％と目標値を超えているが、「生徒は挨拶や返事、言葉遣いなど礼儀正しく、日常生活のマナーが守られている」と回答した教職員は73.9％と目標値には届かなかった。	・頭髮服装指導において再検査を受けなければならない生徒が10％以下。 ・挨拶、返事、頭髮服装等の基本的生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が90％以上、職員の肯定的評価が80％以上。 ・常に受験、就職試験に向かえるような態度や服装で学校生活が送れている。	・日常的な学年指導・教科指導と定期的な全体指導を充実させる。 ・指導部ノートや生徒指導委員会を有効活用する。 ・生徒・保護者に指導状況を丁寧に説明し、適時な連携による指導を徹底する。 ・「報告・連絡・相談」を徹底し、各学年、授業担当者と緊密に連携する。 ・進路決定時の面接を常に意識させた指導を行う。	・頭髮服装検査で再検査となる生徒は16％。 ・「基本的生活態度」に係る生徒の肯定的回答は88.7％。教職員の肯定的回答が91.3％。	C	・継続的に細やかな生徒指導の徹底。 ・職員間で共通認識を確認し、見逃さない指導を徹底。
	②部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成	・「部活動は社会人としての力を身につけるのにも役立っていると思う」と回答した生徒は88.9％だが、礼儀、マナー、忍耐力の改善を要する生徒も散見される。	・全生徒が部活動に加入している状態が継続している。 ・部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。	・部活動指導計画に基づいた適切な運営をとし、技術向上のみならず人間的な成長を支援する。 ・本校の実態及び将来像に即した部活動の精選を進める。	・「部活動加入」や「部活動の成果」に係る生徒の肯定的回答は88.9％。	B	・部活動をやめた生徒について情報を共有し、他の部への再加入をすすめる。 ・大会を公開するなど、地域とのつながりを強める活動を増やす。
	③多様な生徒を理解し一人ひとりの自己有用感の伸長	・「学校が安心安全な場所である」と回答した生徒は85.0％であった。また、安全な場所と感じていない生徒は令和5年度が20.3％、令和6年度は15.0％と減少した。 ・「携帯・スマートフォンの学校外での使用時間が多くならないようにしている」と回答した生徒は60.8％。 ・「携帯・スマートフォンに関係するトラブルが起こらないよう、ルール・マナーを守っている」と回答した生徒は97.4％で、生徒の意識は高い。 ・いじめの発生件数 0件。 ・「将来やってみたいことがある」と回答した生徒は82.4％、「やればできると思う」と回答した生徒が89.7％と、多くの生徒が自己有用感を感じている。 ・「授業でUDを意識し板書の工夫をしている」と回答した教員は82.6％で目標値に達した。	・「学校が安心安全な場所である」と回答する生徒が70％以上。 ・SNSの利用に係るマナーやモラルを守ることができる。 ・いじめの発生件数0件。 ・他者の気持ちや周囲に配慮した言動ができる。 ・生徒一人ひとりが自己実現を目指し、あらゆる教育活動の中で生き生きと活動している。 ・岩美高版UDを意識して効果的な指導・支援に取り組む教員の割合が85％以上。	・情報モラル講演会等を早期に実施し、あらゆる機会を通じて、スマートフォンの扱い方や、SNSの危険性について啓発活動を行っていく。 ・生徒観察及びアセスメントを全職員で連携して実施し、必要に応じて個人面談や個別学習指導を実施する。 ・学年を中心としたケース会議の開催や保護者や関係機関との連携により、効果的な指導・支援につなげる。 ・「教育相談だより」の発行や面談を通した働きかけにより、生徒の自己理解・他者理解を深め、自己有用感を高めるためのヒントを伝える。	・「学校が安全な場所である」(5月)と回答した生徒が62.2％。 ・「携帯・スマートフォンの娯楽での使用時間が多くならないようにしている」と回答した生徒は57.8％。 ・「携帯・スマートフォン使用のルールを守ること」や「携帯・スマートフォンに頼りすぎず人間関係を構築する」ことに肯定的に回答した生徒は95.2％。 ・1学期時点でのいじめ発生件数は0件。 「授業でUDを意識し板書の工夫をしている」と回答した教職員は65.2％。 ・情報モラル講演会を1年対象に3月、2、3年対象に5月に実施。	C	・随時SCとの対話的なケーススタディを行い、多面的な生徒理解及び多様な対応・指導について検討する。 ・保健便りや全校集会などの機会に、情報モラルに対しての啓発活動を行う。 ・生徒の自己理解及び他者理解を高めるための生徒対象講演会並びに教職員対象研修会を11月に実施する。 ・すべての生徒が学習内容を理解できる授業及び岩美高版UDを意識した授業実践および生徒の実態を踏まえた指導上の工夫を行う。
3 地域と連携した 学校つくりと魅力 化	①類型制の発展等も含めた「岩美高校のあり方」構築	・教務企画部と進路指導部が連携した類型選択を行ったが、もう少し早い段階で進路学習に取り組むことで、より適切な選択ができたと感じた。 ・岩美高校魅力化コーディネーターに協力していただき、積極的に広報活動が行えた。 →学校案内パンフレットをリニューアルし、県内外の中学校に配布。 →「地域みらい留学」に参画し対面やオンラインで学校説明会を実施。 →学校生活の様子を学校HPやYouTubeチャンネルで広く情報発信。 →「日々つれづれ瓦版」を発行し、地域の方々に情報を発信。 →生徒の自主的な地域貢献活動、国際交流活動、部活動の取組等が全国に放映されたり、全国紙、地方紙に掲載された。	・進路を見据えた類型選択を行うことができる。 ・各類型の学習内容の魅力が効果的に発信でき、積極的に地域との交流が図れている。 ・地域コミュニティの拠点となっている。	・学年、教務企画部及び進路指導部で連携をとりながら、生徒にとって適切な類型選択となるよう選択調査を実施する。 ・進路志望を意識した類型選択となるよう、各進路行事を再構築する。 ・学校運営協議会を有効活用し、具体的な地域学校協働活動に着手する。 ・「岩美高校あり方検討委員会」の議論内容を教職員間で共有し、「中学生が行きたくなる学校づくり」の具体策について検討する。	・1年保護者対象の類型説明会を実施(8月20日) ・積極的な広報活動を行った。 →学校案内パンフレットを見やすい形に変更。 →「地域みらい留学」対面説明会に2回、オンライン説明会に6回参加。 →「日々つれづれ瓦版」を3回発行。 →生徒の取組が複数回放映・掲載。 ・地域にてボランティア活動や地域交流事業を実施。(イベント補助、小学生との農業活動)	B	・「岩美高校あり方検討会」にて、類型ごとの特色ある取組やカリキュラム、生徒募集について検討を行う。 ・地域と連携した取組を積極的に行う。
	②地域探究型学習の発展・充実	・探究学習ではワーキンググループで議論した案を元に3学年それぞれで地域と連携した活動を行っており、学校と地域が密接にかかわる活動が加速している。 ・「地域と連携した活動にも取り組み地域に貢献したい」と回答した生徒が86.3％。 ・「地域と連携し、地域に貢献する活動は充実している」と回答した教職員は100％。	・地域探究型学習の成果が進路実現につながっている。 ・ワーキンググループを中心に練った探究学習の年間計画が全職員に浸透し、生徒が生き生きと学習している。 ・「地域と連携した活動にも取り組み地域に貢献したい」と回答する生徒が90％以上。	・ワーキンググループを月1度開催し計画を立て、その計画を学年ごとに周知、議論する場を設ける。 ・岩美高校魅力化コーディネーターの配置を更に地域資源の有効な活用による内容の深化・拡充につなげる。 ・地域探究型学習の成果が進路志望や入試に活用できるように指導する。	・「地域と連携した活動にも取り組み地域に貢献したい」と回答した生徒が84.9％。 ・「地域と連携し、地域に貢献する活動は充実している」と回答した教職員は100％。	B	・探究学習のより効果的な指導方法に係る職員研修を実施。 ・探究学習の取組を校外にむけて発信する。
4 業務改善	校務分掌、任務分担の見直しと長時間勤務者を解消	・衛生委員会での協議事項について、速やかに報告・共有するとともに、重要課題等については職員会議等を活用して教職員で共有し、業務改善についての自覚を促してきたが、令和7年1月時点において、時間外業務時間の年間合計が360時間を超える教職員が複数名いた。 ・教職員の休養室と更衣室を整備することができた。 ・GoogleClassroomの活用が浸透してきており、ICTの授業や、校務での活用が進みつつある。 ・部活動の計画段階で時間外の指導時間を点検し、教職員への意識づけを図っているが、大会引率や遠征による時間外勤務時間が多くなる傾向がある。 ・職員会議の時間の短縮、分掌業務等の精選について検討しながら、時間外業務の縮減を進めている。	・令和8年1月末時点において、時間外業務時間の年間合計が360時間を超える教職員がいない。 ・業務改善のためのICT活用のさらなる推進。 ・会議の精選と職員会議の時間短縮ができている。	・業務削減策について情報を収集し、業務量の適正化が図れる効果的な対策等について検討する。 ・行事や大会引率時の勤務時間割振りの徹底。 ・部活動計画表及び実績表の活用。	・令和7年8月末時点において、時間外業務時間の年間合計が150時間(30時間×5ヶ月)を超える教職員が4名。	C	・ICTの活用による業務改善を行う。 ・随時任務分担を見直す。

※生徒及び教職員の回答は、学校評価アンケート(12月)及び生活満足調査(10月)結果を活用

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]